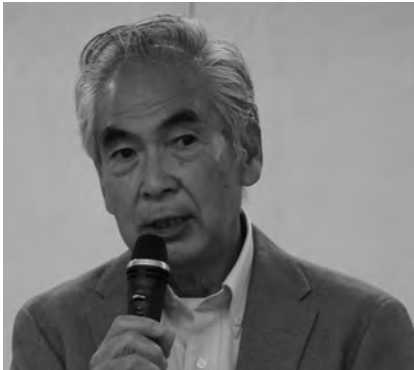


2023年度・第29回組織活動交流集会 日本退職教職員協議会



竹田邦明 会長



水岡俊一 議員



古賀ちかげ 議員

4年ぶりに通常の交流集会を実施し、11本のレポートの報告を受けて2つの分散会で討論を深めました。その他に2本のレポートもありました(計13本)が、都合によって執筆者が参加できず、レポート提出だけになりました。参加者も71名と例年通りに戻り、各単会の活動も活発になってきたことが大きな収穫でした。今回、参加できなかった単会も、来年は是非参加してほしいと思います。

開会式では、国際政治や国内の政治・経済・教育の課題について会長をはじめ、来賓の日教組・梶原貴副委員長、教職員共済・岡島真砂樹理事長、相互共済会・朽見誠二理事長そして、水岡俊一・古賀ちかげ両参議院議員の挨拶を受けました。

第29回組織活動交流集会、成功裏に終わる!! 10月13日

第一分散会
「平和・組織・教育・
人権・文化」

教育のセーフティネットについて
考えるー自主夜間学校「いいあ
す京都」の挑戦

京都府退教 川端宏幸さん
公立の夜間中学は全国で17都道府県44校存在して、今後11県で設置予定である。公立の夜間中学校は最後の砦にならない。これは「原則として、高卒以上の方は義務教育を受けているものとして、入学の対象にしません」という条項で、高校の「形式卒業者」は入学を拒否される。また毎日通学できない生徒も夜間中学通学は困難である。こういった問題から誰でも受け入れる「自主夜間学校」が必要であり、自主夜間学校「いいあす京都」



川端宏幸さん

が生まれた。この学校の母体となったのは、「京都府部落解放センター」であり、京都の同和教育が発展した解放教育の延長上に自主夜間学校「いいあす京都」が生まれたわけだ。自主夜間学校「いいあす京都」は夜間中学洛友の補完的役割も果たしており、多くの「教育難民」が「小さな喜びを感じ、小さな幸せを見つける」手助けをしている。

若い人にとって「戦争の記憶」を伝えるか

静岡県退教 山田勝洋さん
8月19日「夏・平和の会」が開かれた。そこで「私たちの多くは戦時中、幼児か戦後に生まれた世代なので、戦場での経験はもろろんなく、空襲も、疎開を体験してもほとんど

日退教通信

No. 410

2023.11

日本退職教職員協議会

〒101-0003 東京都千代田区一ツ橋二一六―二 日本教育会館6F
発行責任者 竹田邦明
TEL 03(5275)2197 FAX 03(5275)2081
E-mail nitaikyoo@gmail.com ホームページURL http://www.nitaikyoo.com



山田勝洋さん

覚えていない」というところからスタートした。

1945年4月4日の清水空襲について現在参加者が居住している関係で話題になった。今まで親に聞いたこともない人がこれを機会に聞こうと思ったとか、どこの被害がひどかったかが話題になった。また当時多くの人が行っていた満州のことも話題になった。私たち自身が過去の「戦争」であれ、傍観者であっては若い人に「戦争」を語ることはできない。身近から「戦争」を共有化して若い人に伝えていきたい。

組織強化に向けた北退教の活動について

北海道退教 筒井比呂志さん
北退教は24の地域退教の連絡組織で会員は約4千人、全国一の会員数です。現在、定年延長と教員の人・地域との

かわりを避ける傾向もあり、会員数が減少の傾向にある。そこで現職支部と連帯して現退一致の活動に取り組むことで組織拡大をはかっている。現退で取り組んできた「アイヌの授業」の資料集が完成、大規模風力発電建設事業に反対する取り組みなどがその実践である。さらに健康と生きがいのための親睦交流、親睦旅行、研修会等の活動をすすめ組織拡大につとめている。



筒井比呂志さん

「組織拡大・強化と愛知退教連の目的」

愛知退教連 沖田了紀さん
2017年現職の組織構成の変化（「県費負担教職員との給与負担等の道府県から指定都市への移譲」をふまえて）から「愛知県退教職員協議会（愛退教）」と「名古屋市退教職員協議会（名退教）」が組織された。そして愛退教、

名退教の連合会である「愛知退教職員連合会（愛知退教連）」が生まれた。

現在、退教連と退職公務員連盟の違いを理解してもらえないことなどから組織率の減少がすすんだ。そこで、この歯止めをかけるべく地区の校長会の会合において、入会を呼びかける取り組みをはじめた。この結果、減少傾向にストップがかかった。愛知は、組合・校長会・教育委員会とPTAが手を携えて愛知の教育をよりよいものにしてきた。また現退一致の運動とりわけ地方選挙において組合の組織内候補がトップ当選を果たせたことが成果としてあげられる。



沖田了紀さん

山口県の民衆は負けない

山口退教 鳥家治彦さん
山口では、県内各地で、人権・平和のために闘っている一般市民と連帯をして活動し



鳥家治彦さん

する取り組み、天皇制の強化に反対する取り組み、上関原発建設反対、イージスアショア反対など、数多くの活動をしている。

島根原発2号機運転差止仮処分裁判の取り組み、自分の思いを行動に、

鳥取県退教 後藤 譲さん
日退教通信第409号2、4面、日退教のホームページにリポートがありますので（すべてのリポート）、それをご覧ください。



後藤 譲さん

第二分散会

「平和・組織・教育・人権・文化」

「はだしのゲン」削除問題を考える」

広島県退協 石村政利さん
平和教育についての報告。

広島市教委は2013年から平和教育の副教材として使用してきた「広島平和ノート」の改訂を2023年2月に発表し、多数の小学校で平和教



石村政利さん

争体験集「いのちの花」を発行した。

さらに、子どもたちにはわかりやすく伝えるために、そこからシナリオを作り劇団を立ち上げ、「不戦の誓い」を花言葉に持つ「大根の花」を劇団名として公演をしている。朗読劇として「沖繩戦」をメインに「ヒロシマ」「焼夷弾」を組み合わせながら公演をし、新作「中国侵略・加害」にも取り組んでいる。



今井啓子さん

「安倍晋三元首相国葬閣議決定取り消し並びに予算執行差し止め違憲確認並びに損害賠償請求事件」横浜訴訟について」

神奈川高シニア運動

早川芳夫さん

横浜訴訟では5月11日に結審、7月12日に判決が出た。

①思想・良心の自由を侵害する閣議決定の無効確認、②思想・良心・信教の自由に反する予算執行の無効確認、③国葬は憲法違反、④国葬に使われた20数億円の国家賠償を求め、以上4点を争点としてきたがすべて国の主張通りの判決だった。東京高裁に控訴状を提出したので、現在、高裁からの連絡を待っている状況である。



早川芳夫さん

「都高教退職会の活動について」2022年度の報告」

東京高退 片山 亨さん

都高退では現職との共催で、毎年6月に「憲法学習会」、12月に「反原発学習会」を行っている。退職会独自の取り組みとしては「辺野古座り込みツアー」を行っており、今年

は8名が参加した。かつて97%あった現職の組織率は落ち込んでおり、退職会には入らないと意思表示しない限り会員になるように制度を変えたが、ホームページも中断している中、広報が難しく、行事も幹事以外の参加が少ないというのが実態である。



片山 亨さん

「高退教活動って、何……?」

熊本高退教 木田文博さん

高退教の地区委員会の活動として、以前、9年ぶりに地区の新年会を復活させたことを報告したが、地区会員の参加が課題となった。そこで、年四回の企画に取り組み、地区便りを通して会員に伝えてきた。しかし、郵送費の関係で地区便りを郵送できたのは6分の1の会員のみで、参加者も期待を下回った。



木田文博さん

かつて、高退教は「互助会的な集まり」と言われこともあったが、「高退教としてのポリシーがないといけない」と思い活動を続けているが、拠り所となっていた組合の建物が解体されたのは大きな痛手である。

報告を受け、前半は主として平和教育について、後半は組織活動について、活発な意見交換がなされた。この他、千葉県退教「千葉県退教の現状と取り組んできたこと」、福島「400号間近!!会報発行のとりくみ」がレポートとして提出された。

.....

9月の総がかり行動に、 高齢者集会の参加者も

2015年9月19日は、安倍晋三内閣による戦争法強行採決の日です。それ以来、毎月19日を総がかり行動の日として、雨にも負けず、風にも負けず国会議員会館前で集会を開催しています。今年は、8年目の9月19日になります。日退教は、首都圏単会の会員とともに、毎月休まず参加をしています。今年の退職者連合高齢者集会は19日だったので、集会終了後、北退教（渡部薫さん）、岩手県退（阿部作生さん）、鹿児島県退（下馬場学さん）の3人も参加しました。



五者合同学習会

第29回五者合同学習会は、10月12日にラポール日教済で開催されました。田中正敬専修大学教授から「関東大震災100年、朝鮮人虐殺」、羽場久美子青山学院大学名誉教授から「東アジアでの戦争をいかに回避するか～軍備拡大ではなく、沖縄を平和のハブに！」と題して講演をいただきました。



羽場久美子 名誉教授



田中正敬 教授

日教組2023平和集会に 日退教中国ブロックから参加

今年の平和集会（10月21～22日）は、山口県の岩国市で行われました。日退教からも鳥取県退（後藤譲さん）、広島県退（田尾伸治さん）、岡山退（江森享子さん）、山口退（鳥家治彦さん）、広島高退（黒川富秋さん）の5人が参加しました。今年になって、各地でいろんな運動が再開されています。

◆編集後記◆

中国は管理された情報社会で、日本は自由な情報社会と思いが、ここ数年の日本の状況は中国と大差がないようである。

特に、ネットで情報を得ようとすると管理された情報に気づかされる。先日あった宮城の県議選の結果は、維新がはじめて2議席確保（2人は落選）したことのみにネットニュースは伝え、立憲民主党の10人全員が当選したことを伝えていなかった。

この手口はさまざまな面にみられ、権力に都合の悪い情報を一般に伝えない構造が中国のように出来上がりあるようだ。そういう意味では、今後日退教を通じた情報は重要なものになっていく可能性は大となるだろう。

(石)